

競技注意事項

1. 競技規則について

本大会は、2021 年度日本陸上競技連盟規則、ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 千歳市青葉陸上競技場使用上の注意

- 1) 当該種目競技者以外は、競技エリアへの立ち入りを禁止する。
- 2) 競技開始後はフィールド内での練習を禁止する。
- 3) 競技場を使用しての練習は競技開始の 15 分前までとする。
- 4) 投擲種目の練習は係の指示に従うこと。また、芝に空いた穴は修復すること。
- 5) 競技開始前の練習ではレーン保護のため 1 レーンを使用しないこと。

3. ナンバーカードについて

- 1) 学連に登録した競技者は、各自の学連ナンバーカードを使用する。まだナンバーカードを受け取っていない競技者は、受付まで団体ごとに学連ナンバーカードを取りに来ること。
- 2) 腰ナンバーカードは各校が用意したものを使用する。個人トラック種目出場者については右側につける。4×100mR については 4 走者のみ右側につける。4×400mR については 2, 3 走が両側に 4 走が右側につける。
- 3) 3000m 以上の競技の通しナンバーカードについては 1 時点呼として配布するので体の前後につけること。ただし、男女混合の種目の女子については変則的な番号(1 から始まらない番号)となっていることがあるので注意すること。

4. 点呼について

- 1) 競技者は指定された時間までに1次点呼(○付け、又はシューズ検定)を行い、その後各競技開始場所に直接集合する。
- 2) 3000mSC,10000mW では通しナンバーカードの配布を持って 1 次点呼とし、5000m,10000m については通しナンバーカードの配布とシューズ検定を持って 1 次点呼とする。シューズ検定は時間がかかる場合があるため、早めに受けることを推奨する。その他の競技では○付けを持って 1 次点呼とする。

1次点呼(○付け)・現地集合時刻は以下の通りとする。

	1 次点呼	現地集合時間
トラック競技	競技開始 40 分前	競技開始 20 分前
フィールド競技(棒高跳を除く)	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前
棒高跳	競技開始 70 分前	競技開始 60 分前

3) 1次点呼を行わない、または指定された時間に競技開始場所にいなかった競技者は当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。

- 4) 代理人による招集最終確認は原則として認めないが、競技者が他の種目に出場中の場合のみ代理人による点呼を認める。その場合はその旨を競技者係にあらかじめ伝えておくこと。
- 5) 1次点呼場所は、**メインスタンド右側器具庫(100m ゴール側)内**に設ける。
- 6) 1次点呼終了時刻、及び現地集合時刻はプログラム記載の競技日程の通りとする。

- 7) リレー種目は、オーダー用紙(本部受付に用意)に走順・ナンバー・名前を記入し、1次点呼(○付け)終了時刻の1時間前までに競技者係に提出すること。
- 8) 混成競技の招集は、その日の最初の種目のみ招集を行い、以後の招集は行わない。競技者は次の種目の実施場所に移動し、混成競技者係の指示を受ける。

5. シューズについて

- 1) 各競技者は日本陸上競技連盟競技規則 TR5 に基づいたシューズを着用すること。

以下の表は日本陸上競技連盟陸上競技規則より抜粋した靴底の最大の厚さである。これ以上の厚さのシューズで出走することはできず、仮に基準より厚い靴で競技を行った場合は競技規則に基づいて失格となるので注意すること。ただし、やり投げの旧規格スパイク(つま先側がかかとよりも厚いもの)については1次点呼にて申告することで失格とはならない。

種目	靴底の最大の厚さ	要件・備考
フィールド種目 (三段跳を除く)	20 mm	全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く長さを競う跳躍種目に適用。全フィールド種目で、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
三段跳	25 mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、後ろの中心点の靴底の厚さを超えてはならない。
ハードル種目を含む 800m 未満のトラック種目	20 mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
障害物競走を含む 800m 以上のトラック種目	25 mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技の靴底の最大の厚さは、道路競技と同じとする。
競歩種目	40 mm	

- 2) 靴底の厚さ計測を行うため、競歩と障害物競走を除く3000m以上の種目に参加するものは1次点呼として全員必ずレースで使用するシューズを1次点呼場所に持参しシューズの厚さ検定を受けること。1次点呼を兼ねているため、検定を受けなかった場合は棄権として処理されるので注意すること。
- 3) やり投げにて旧規格のスパイクを使用する場合は、1次点呼の際にチェック欄にチェックを入れること。旧規格のスパイクで競技を行っても公認となるが大会記録、学生記録等の認定はされない。ただし、申告を行わずに競技を行った場合は失格となるので必ず申告をすること。

6. 棄権について

- 1) 事前に棄権することがわかっている場合は、指定の期日までに指定の方式で申し出ること。
- 2) 大会当日、やむなく棄権する場合は、棄権届け(2枚)に必要事項を記入し、競技者係と本部へ提出すること。
なお、棄権届は大会受付(メインスタンド下役員審判控室)にあるので、取りに来ること。

7. 競技の抽選・番組編成について

- 1) トラック競技予選のレーン順、フィールド競技の試技順はプログラム記載の順による。
- 2) 準決勝以降の組み合わせ、およびレーン順は主催者が抽選する。

3) 事前棄権者が多数の場合、予選ラウンドが行われない競技については、選手の最高記録を考慮して決勝ラウンドの番組編成を行う。

8. 用器具について

競技に使用する用器具は、すべて主催者側が用意したものを使わなければならない。ただし、投擲物は個人所有のものを使用することができる(1次点呼(○付け)終了時刻1時間前に用器具庫で各々検査を受けて許可されたものに限る)。この投擲物は、他の競技者も使用できる。(規則第 187 条)

9. 滑り止め(炭酸マグネシウムについて)

主催者側では用意しない。必要に応じて各個人が個別に持参すること。

10. トラック競技について

1) すべて写真判定とするが、万一、機器が故障し、復旧しない場合は、手動計時に切り替えて継続する。

2) 次の種目は、競技進行に遅れを生じさせる恐れがある場合のみ、次の条件で打ち切ることがある。制限時間は以下の通りとする。また、このタイムは変更の場合がある。

男子 5000m	18 分 00 秒	女子 5000m	22 分 00 秒
男子 10000m	40 分 00 秒	女子 10000m	45 分 00 秒
男子 10000mW	65 分 00 秒	女子 10000mW	70 分 00 秒
男子 3000mSC	15 分 00 秒	女子 3000mSC	18 分 00 秒

11. フィールド競技について

1) フィールド競技における競技場内での練習は原則として2回とし、すべて競技役員の指示に従う。

2) フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。

3) 跳躍競技でのバーの上げ方は下記の通りとするが、状況により変更することもあり得る。

男子 走高跳	練習 1m70	試技 1m75 より 5cm	1m95 より 3 cm
女子 走高跳	練習 1m40	試技 1m45 より 5cm	1m70 より 3 cm
男子 棒高跳	練習 2m90	試技 3m00 より 10 cm	
女子 棒高跳	練習 2m00	試技 2m10 より 10 cm	
男子 混成走高跳	練習 1m45	試技 1m50 より 5 cm	1m80 より 3 cm
男子 混成棒高跳	練習 2m70	試技 2m80 より 10 cm	
女子 混成走高跳	練習 1m20	試技 1m25 より 5 cm	1m45 より 3 cm

4) 走幅跳では、男子 5m00、女子 4m00 に満たない記録は計測しない。三段跳では、男子は11m板と 13m板を、女子は9m板を使用する。なお、この条件については状況により変更する場合もある。

5) 選手の競技力をみて、審判の判断で変更する場合は必ず総務に相談の上、全体の競技進行を考慮して変更することとする。

12. 表彰について

1) 8位までの入賞者に賞状、メダルを授与するので、1日目に競技をしたものは2日目の朝に受付にて代表者が受け取ること。2日目に競技をしたものは競技終了後に閉会式に出席した代表者に渡すので受け取ること。代表者が受け取りに来られない場合は本部まで事前に連絡すること。

13. 抗議について

- 1) 競技進行中に起きた競技者の行為、または競技成績に関する抗議は、その競技者あるいはチームの代表者により結果が正式発表(アナウンス)されてから 30 分以内(同一日に次のラウンドが行われる競技では、その結果が正式に発表されてから15分以内)に、総務員を通して口頭で審判長になされなければならない。時間以内に申し出がなければ、何ら問題はなかったものとみなされる。
- 2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。その裁定を不服とし、さらに抗議する場合は抗議申立書と預託金 10,000 円を添えて上訴する。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合は没収される。
- 3) この間の事務処理は総務員が行い、抗議者は大会本部で待機する。

14. 入場許可兼撮影許可リボンについて

- 1) 本大会会場には別資料新型コロナウイルス感染症予防対策のガイダンス記載の通り、すべての欄に記入のある体調管理チェックシートを提出しない者、チェックシートに○のついている者、当日体調不良の者、同居家族や知人、友人に感染の疑われる人がいる者等は入場ができない。
- 2) 競技会当日の朝にチェックシートを提出した者には安全ピン付きのリボンを配布するので、服のよく見える位置につけること。リボンをつけていない者はチェックシートを提出していない者として、提出または会場からの退場をお願いするので必ずリボンをつけること。
- 3) なお、このリボンは撮影許可証を兼ねるため、リボンをつけている者は撮影が許可されている場所(スタンド上)からの撮影を許可する。ただし、競技者(選手)がカメラで撮影されることによって嫌悪や不安に感じられる場所からの撮影は禁止する。また、撮影をしている場所によっては不審と判断された場合、競技役員が注意・指導、撮影内容の確認をする場合がある。

15. その他

- 1) 各校テントがかたまらないように離して設置すること。
- 2) 競技者の衣類の管理は、すべて各自で行うこと。※役員・補助員による運搬は行わない。
- 3) 盗難・紛失について、主催者で受領した物品等については一時保管するが、その他のものについては一切責任を負わない。なお、主催者で受領した物品等は大会本部で管理する。
- 4) 競技中の事故等による身体の故障の場合、応急処置を行うが、その後の治療等は本人負担とする(競技者保険の適用)。また、事故の結果について本連盟は一切責任を負わない。
- 5) **大会期間中に出たゴミは、必ず各自で持ち帰ること。**
- 6) 不審者等を発見したら、大会本部まで連絡すること。
- 7) 大会後に新型コロナウイルスに罹患したことが判明した場合は hokaido.gakuren.corona@gmail.com に連絡すること。
- 8) その他、不明な点は大会本部に問い合わせること。